

英語を母語話者とする日本語学習者におけるカタカナ語の研究 (II) —習得しやすいカタカナ語と習得しにくいカタカナ語—

*

池谷 知子[†]・久津木 文[‡]

神戸松蔭女子学院大学 文学部[†]・人間科学部[‡]

tikeya[at]shoin.ac.jp[†]・ayakutsuki[at]shoin.ac.jp[‡]

Study of *katakana* for English Speakers Learning Japanese (II)

IKEYA Tomoko[†]・KUTSUKI Aya[‡]

Faculty of Letters[†]・Faculty of Human Sciences[‡], Kobe Shoin Women's
University

Abstract

KATAKANA words bring difficulties for foreign learners of Japanese, because it is hard to distinguish them from original English (or other foreign) words, and they may also have synonyms in Non-KATAKANA words.

This study looks into 55 Japanese learners of native English speaker about choosing Japanese words in the following 6 categories that have a pair of words in KATANAKA and in Non-KATAKANA respectively.

- | | | |
|------------|---------|---------------------|
| Category 1 | Bottle: | “BOTORU”/“BIN” |
| Category 2 | Brush: | “BURASHI”/“FUDE” |
| Category 3 | Glove: | “GUROBE”/“TEBUKURO” |
| Category 4 | Potato: | “POTETO”/“IMO” |
| Category 5 | Tea: | “THI”/“OCHA” |
| Category 6 | Ticket: | “THIKETTO”/“KEN” |

In conclusion, Japanese learners of native English speaker have tendencies (1) to choose KATAKANA word, when KATAKANA is embedded with the name of object, (2) to choose Non-KATAKANA word, when it refers to Japanese traditional

*この論文は日本私立学校振興共済事業団から平成 24 年度・25 年度学術研究振興資金援助を受けた「日本語学習者におけるカタカナ外来語の理解についての研究」(研究代表者:久津木文)の調査結果の一部である。この調査では日本語母語話者と英語母語話者について同じような調査を行った。日本語母語話者については久津木が分析し、英語母語話者については池谷が分析した。

objects, (3) to choose KATAKANA word, if they are unsure of selecting, (4) to develop their own way to discern KATAKANA word and Non-KATAKANA word, (5) to learn the distinction between KATAKANA word and Non-KATAKANA word by having ample opportunities for Japanese language input.

日本語を学ぶ外国人が苦勞するものとして「日本語の中のカタカナ」が挙げられる。本研究では英語母語話者の日本語学習者 55 人に次の 6 組のカタカナ語と非カタカナ語の使い分けについての研究調査を行った。

カテゴリー 1 Bottle ボトルと瓶 カテゴリー 2 Brush ブラシと筆
カテゴリー 3 Glove グローブと手袋 カテゴリー 4 Potato ポテトと芋
カテゴリー 5 Tea ティーとお茶 カテゴリー 6 Ticket チケットと券

その結果として以下のことがわかった。

1. カタカナ語に関して、非カタカナ語に対応する語がなく「ペットボトル」「歯ブラシ」のように指示対象物の名称の中にそのカタカナ語が入っていれば、カタカナ語を選びやすい。
2. 日本的なものは非カタカナ語、そうではないものはカタカナ語を選ぶ傾向がある。
3. カタカナ語と非カタカナ語のどちらを使えばよいのか不明な場合、英語の母語の知識を生かして、それと対応するカタカナ語が選択されやすい。
4. 日本語学習者は材料や形態など、独自の使い分けの基準を適用して判断することがある。
5. 一般的に、カタカナ語と非カタカナ語の使い分けは辞書に書いていないことが多いことから、その情報にどのくらいアクセスできるかが習得の鍵になっている。

キーワード: 英語母語話者の日本語学習者, 意味のずれ, カタカナ語, 非カタカナ語, 習得

Key Words: English Speakers Learning Japanese, Gap of the meaning, Katakana, Non-Katakana, Learning

1. 研究の背景と目的

日本語にはひらがな、カタカナ、漢字の 3 つの語種があることが広く知られている。秋元 (2002:P63)『よくわかる語彙』では次のようにまとめられている。(ゴシックは筆者によるものである)

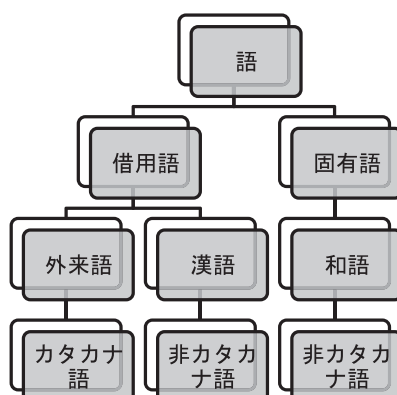
まず日本語本来の固有語と外国語からの借用語に二分し、借用語をさらに漢語と外来語に分類することもある。しかし、漢語は中国語を起源とする語も少なくないが、日本語の中に入ってきた歴史も古く、また漢語の多くは日本人が漢字音を自在に用いて作り出したものなので、借用語という意識は薄い。したがって、外来語と漢語を借用語の下に同じように置くのには抵抗を感じる。このため、日本語の語種分類は、和語、漢語、外来語、それに複数の語種からなる混種語にわけるのが妥当であろう。

これを簡単にまとめると、厳密な語の起源とは別に、一般的な日本人の意識として、外来語として有標形式であるカタカナ語と、和語と漢語を含めて無標形式である非カタカ

ナ語（和語・漢語）という、大きく2つのグループにわけることができると言い換えることができるだろう。

そこで、本論文では外来語をカタカナ語、和語と漢語をあわせたものを非カタカナ語と呼ぶことにする。カタカナで表記するものには外来語だけではなく、オノマトペや動植物の名前なども含まれるが、ここでは狭義に「外来語＝カタカナ語」として議論を進めることにする。また、本論文では主に英語を母語とする日本語学習者を研究対象とするため、取り扱うカタカナ語も英語起源のカタカナ語のみとする。秋元（2002:P64）の表を元に、「カタカナ語」と「非カタカナ語」を入れ、再構成したものが表1である。

表 1: カタカナ語と非カタカナ語の位置関係



ここで問題となってくるのが、1つの事物を表す時にカタカナ語の「サーモン」を使ったり、非カタカナ語の「鮭」を使ったりした場合の意味のマッピング（使い分け）である。鳥飼（2007）などでも指摘されているように、日本語を学ぶ外国人が苦勞するものとして「日本語の中のカタカナ」が挙げられている。

カタカナ語を説明することは一見、語彙の問題であり単純に見えるが、スーパーで同じ魚が「サーモン」「鮭」という二つの名前で売られているのに対して感じる日本語学習者の素朴な疑問、つまり、いつ「サーモン」と呼び、いつ「鮭」を使うのか、ということに対して明確に答えられる日本人は少ないだろう。なぜならカタカナ語と非カタカナ語の使い分けは辞書には載っていない問題だからである。また、このことは英語の salmon≠サーモン、鮭ということも示している。

この研究は、日本私立学校振興共済事業団から平成24年度、平成25年度に学術研究振興資金から援助を受け、「日本語学習者におけるカタカナ外来語の理解についての研究」（研究代表者：久津木文）として行った研究成果の一部をまとめたものである。この調査では、英語母語話者の日本語学習者を調査し、カタカナ語と非カタカナ語の意味のマッピングをどのようにおこなっているのかを調査した。

2. 予備調査のまとめ

平成 24 年度に行った予備調査の詳細は池谷・久津木 (2013) 「英語を母語話者とする日本語学習者におけるカタカナ語の研究-Tea とティーとお茶は同じなのか-」に譲るが、本調査と比較するために予備調査の概略を簡単にまとめる。

調査対象の英語母語話者はアメリカの D 大学で日本語を勉強している学生 18 名で、内訳は男性 8 名、女性 10 名であった。年齢は 20～26 歳 (平均 20.7 歳) で 2012 年の 7 月に K 市にある女子大学で行われる 1 ヶ月の日本語のプログラムのため、来日している時にアンケートを行った。学年は 3～4 年生で、日本語学習歴の平均は 2.35 年であった。調査した単語は以下の 13 の単語の組み合わせであった。

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|----------|
| ① Brush | ブラシと筆 | ② Tea | ティーとお茶 |
| ③ Dress | ドレスと衣装 | ④ Pot | ポットと急須 |
| ⑤ Slippers | スリッパと部屋履き | ⑥ Scarf | スカーフと襟巻き |
| ⑦ Cap | キャップと帽子 | ⑧ Boots | ブーツと長靴 |
| ⑨ Gloves | グローブと手袋 | ⑩ Noodles | ヌードルと麺 |
| ⑪ Bottle | ボトルと瓶 | ⑫ Potato | ポテトと芋 |
| ⑬ Ticket | チケットと券 | | |

カタカナ語と日本語の意味のマッピングの違いについて、最もわかりやすい例が⑨「グローブと手袋」であった。この二つは明らかに示す対象物が異なるため、違いがわかりやすい。そのため、キャッチャーミットやボクシンググローブに対して、「手袋」とは言わないということがかなり意識されていた。

一方で、②「ティーとお茶」、⑦「キャップと帽子」のように、意味範疇が全体部分関係を持っており、どちらかがどちらかの上位概念であるような、包摂関係を含んだ単語の使い分けはかなり混乱しており、あまり明確な結果はでなかった。また、使い分けがわからない場合は母語の英語の知識を利用することがわかった。

3. 本調査の概要

3.1 質問項目

2012 年の調査をうけて、2013 年 7 月～9 月に本調査を行った。本調査では予備調査の結果を基に、対象とする語句を以下の 6 のカテゴリーの組み合わせに絞った。

カテゴリー		カテゴリー	
1	Bottle ボトルと瓶	2	Brush ブラシと筆
3	Glove グローブと手袋	4	Potato ポテトと芋
5	Tea ティーとお茶	6	Ticket チケットと券

久津木・池谷 (2013) でも述べられているように、予備調査の 13 組の単語から分析の対象外となった単語は事物刺激の写真がわかりにくく、協力者の回答が想定したものとかけ離れていたものや、ターゲットとして設定したカタカナ語と刺激と適合性が低いものであった。

質問の方法をカテゴリー 1 Bottle の「ボトル」と「瓶」を例に挙げて説明する。まず、カタカナ語の「ボトル」と、非カタカナ語の「瓶」を知っているか確認する。次に、同じカテゴリーに属しそうな 5 枚の写真を並べ、それぞれに対して「ボトル」「瓶」と呼んでも良いと判断する程度を問う。回答は 4 つのスケールから答えを選んでもらうリッカート法で答えてもらった。

回答の選択肢は以下のようにになっている。

1. Never (まったく ** を使わない)
2. Sometimes (どちらかというと ** を使わない)
3. Often (どちらかと言うと ** を使う)
4. Always (常に ** を使う)

つまり、回答者は 6 つのカテゴリーに含まれる写真刺激について、それをカタカナ語「(例) ボトル」を使うか、非カタカナ語の「(例) 瓶」を使うかを 4 段階の確信度で答える。1 つのカテゴリーについて、5 枚の写真刺激×各 2 回 (カタカナ語と非カタカナ語) 合計 10 の質問で構成されることになる。それを 6 つのカテゴリー 60 枚の写真について行う。非カタカナ語の「瓶」を尋ねる時に、それを英語の Bottle について使うことをできるのかもリッカート法で確認した。

3.2 対象者

対象者は英語を母語とする者で、2013 年の 7 月～9 月にかけて H 県内の複数の日本語短期プログラムの学生を対象として行った。

調査対象者の内訳は男性が 18 人、女性が 37 人で N=55 である。¹ 対象の年齢は 10 代が 12 人、20 代が 39 人、30 代以上が 4 人で、平均年齢は 21.6 歳であった。日本語のレベルは自己申告であるが初級が 12 人、中級が 32 人、上級が 9 人であった。アンケートには日本語の資格を持っている場合は記入してもらったが、OPI² や JLPT³ など様々であった。また、外国で勉強しているせいか、資格がないという対象者もかなりいた。

アンケートは対面で用紙を配布して行った。なお、アンケートでは日本語教育学会の倫理規定に基づき、個人情報に配慮して行い、それをデータ化した。表 2 (p. 32) 参照。

3.3 カテゴリー 1 ボトルと瓶

カテゴリー 1 はカタカナ語の「ボトル」と非カタカナ語の「瓶」をどのように使い分けているかをみる設問である。「ワインボトル」は「ワインの瓶」のように「ボトル」と「瓶」の両方の使用を許容するが、同じガラス製品でも「ビール瓶」は、「*ビールボトル」が許容されない。また、同じ飲み物を入れるものであってもプラスチック製である「ペットボトル」は「ボトル」のみ許容され、「瓶」は許容されない。

¹項目によっては欠損があるため数が異なる。

²正式名称 ACTFL-Oral Proficiency Interview. 口頭能力を測るインタビュー形式の試験。

³正式名称 Japanese Language Proficiency Test 或いは日本語能力試験。日本語を母語としない人を対象に日本語能力を認定する試験。






表 2: 調査対象者属性のまとめ (2013 年 7 月～9 月にデータ採取)

1 性別	男性 18 名 女性 37 名 合計 55 名
2 年齢	10 代 12 名、20 代 39 名、30 代 4 名 平均→21.6 歳
3 母語	英語
4 英語以外の使用言語	日本語 1 名 中国語 6 名 韓国語 2 名 その他 4 名
5 日本語レベル	初級 12 名 中級 32 名 上級 9 名
6 日本語学習時間	0.5 年～10 年 平均→ 3.95 年

つまり、「瓶」はガラス製のものに使用し、プラスチック製のものは「ボトル」と呼ばれることから、その材料が使い分けの基準となっていることが推測される。しかし、問題は「瓶」の中にも「ボトル」と呼べるものと「ボトル」と呼べないものが混在していることである。

カテゴリー 1 の刺激となった写真は表 3 の 5 枚である。

表 3: カテゴリー 1 Bottle ボトルと瓶

1-1	1-2	1-3	1-4	1-5
				

写真を解説すると、1-1「飲み物を入れるもの（ペットボトル）」、1-2「シャンプーを入れるもの」、1-3「ワインを入れるもの（ワインボトル）」、1-4「ビールを入れるもの（ビール瓶）」、1-5「洗剤をいれるもの」である。

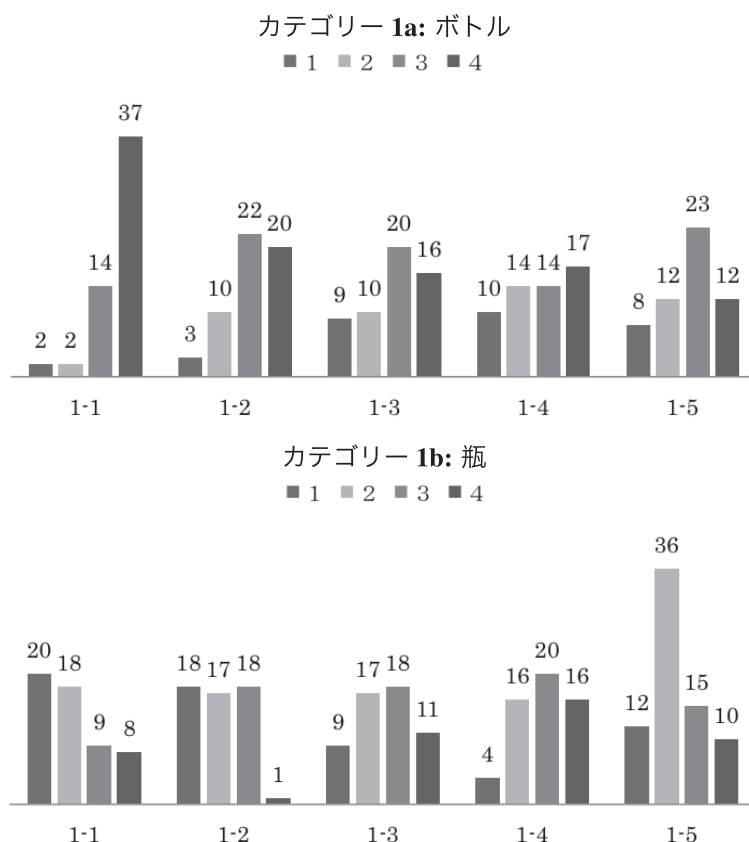
日本語学習者が「ボトル」と「瓶」をどのように使い分けているのかについては、表 4 (p. 33) のような結果となった。

1 が「Never (まったく**を使わない)」と回答した人数で、数字が大きくなるのとともに肯定的な回答をした人数になっており 4 が「Always (常に**を使う)」と回答した人数になっている。つまり、3 や 4 を選ぶ人数が多いとその単語を「使える」と判断しており、1 や 2 が多いと「使えない」と判断していることになる。

カテゴリー 1a 「ボトル」について、1-1 「ペットボトル」を常にカタカナ語の「ボトル」が使える (回答 4) という回答者は 67%(37 人) おり、群を抜いて高かった。しかし、一方で 1-3 「ワインボトル 29% (16 人)」1-4 「ビール瓶 30% (17 人)」で「ボトル」が使える (回答 4) という回答者には差が無い。

カテゴリー 1b 「瓶」について、常に「瓶」が使える (回答 4) という回答者は、1-3 「ワ

表 4: カテゴリー 1: 英語母語話者のボトルと瓶の結果



インボトル 20% (11 人)」と 1-4 「ビール瓶 29%(16 人)」の間であまり差がない。これらのことから、「ワインボトル」と「ビール瓶」の使い分けは認識されていないことがわかる。1-5 「洗剤容器」に関しては、どちらかという「瓶」使わない(回答 1 と 2) というやや否定的な回答を選んだ回答者が 87% (48 人) もおり、1-1 「ペットボトル 69% (38 人)」や 1-2 「シャンプーボトル 63% (35 人)」と比べても突出している。英語の Bottle の使用をみてみると、他の写真刺激は回答 3 や回答 4 を選好していたが、1-5 「洗剤容器」は他と比較すると回答 1 と回答 2 が多く、合計すると 29% (16 人) が使わない方を選んでいた。

ここから仮説をたてると、英語の bottle 場合、手で一周して握れる筒型の形状のものがプロトタイプであり、持ち手がついて持ち上げる大ぶりのものは bottle のプロトタイプから外れる可能性がある。

日本語学習者のボトルと瓶の使い分けに関して、日本語学習者はペットボトルのみ、高い確信をもって「ボトル」と判断しているが、「瓶」に関しては、使い分けの基準になるものが、素材(ガラス or プラスチック)なのか、内容物(飲めるもの or 飲めないもの)な

のか、形状（筒型 or 持ち手付き）なのか等、はっきりしていないと言える。これはおそらく、ペットボトルは「ペットボトル」という名称をよく聞くため、「ボトル」であるとはっきり認識しているが、洗剤やシャンプーの容器のようにあまり名称をとりあげられることがないものは、「ボトル」なのか「瓶」なのか判断がつかないことが推測される。また、瓶についても素材がガラス製であるということで「瓶」の認知的カテゴリーを形成するまでにはいたっていないので、ガラス製の 1-3「ワインボトル」や 1-4「ビール瓶」の写真刺激でも、3 や 4 の確信度をもって「瓶」使うと答えた人は半分に満たない数になっている。

3.4 カテゴリー 2 Brush ブラシと筆

カテゴリー 2 はカタカナ語の「ブラシ」と非カタカナ語の「筆」をどのように使い分けているかをみる設問である。このカテゴリーは大きく 2 つのタイプに分かれる。

1 つ目タイプは「習字の筆」や「絵筆」のように細くたっぷりの水を含ませたブラシの毛の部分を下にし、字や絵などの線を描く道具であるものである。

2 つ目のタイプは「エチケットブラシ」や「ヘアブラシ」「歯ブラシ」のように、比較的水分が少なく、かつ、ブラシの毛の部分を上にして使うものである。これ以外に、「刷毛」がある。刷毛（刷子）は、筆より形が平べったく大型で、毛先がそろった形状をしており、線より広い面積を着色する道具である。水気を含ませず、埃をはらったりすることにも使える。また刷毛は、先端の部分を横でも上でも自由な角度で使うことができる。「刷毛」のようなものは、日本語では「筆」のプロトタイプからは外れるものであるが、「平筆」のように、刷毛と筆の中間的なものもあり、その境界は曖昧である。

カテゴリー 2 の刺激となった写真は表 5 の 5 枚である。

表 5: カテゴリー 2 Brush ブラシと筆

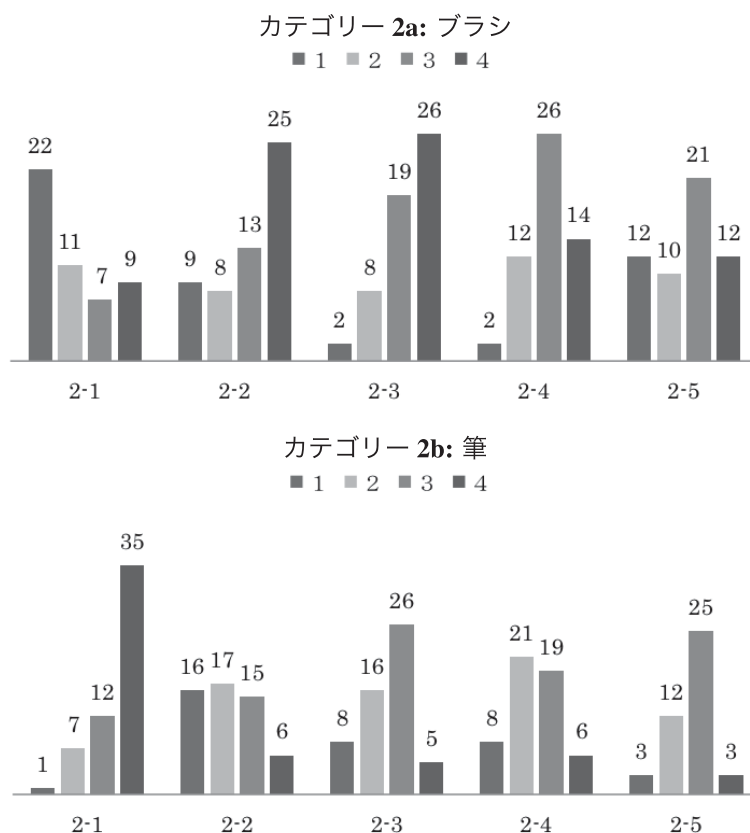
2-1	2-2	2-3	2-4	2-5
				

写真を解説すると、2-1「習字をかくもの（書道の筆）」、2-2「歯をみがもの（歯ブラシ）」、2-3「髪をとかすもの（ヘアブラシ）」、2-4「ペンキを塗るもの（刷毛）」、2-5「絵を描くもの（絵筆）」である。

日本語学習者が「ブラシ」と「筆」をどのように使い分けているのかについては、表 6 (p. 35) のような結果となった。

カテゴリー 2a「ブラシ」について、選好しているものは 1-2「歯ブラシ」と 1-3「ヘアブラシ」であった。3.3 のペットボトルもそうであるが、カタカナ語に関しては指示対象

表 6: カテゴリー 2: 英語母語話者のブラシと筆の結果



物の名称にそのカタカナ語が入っていれば、カテゴリーの判別がつきやすいため、積極的にカタカナ語選びやすいことが考えられる。

カテゴリー 2b「筆」について、「習字の筆」に対して常に「筆」を使うと（回答 4）答えた人が 63%（35 人）であったが、2-5「絵筆」に関しては、常に「筆」を使うと（回答 4）答えた人がたった 5%（3 人）であった。つまり、絵筆に関してはあまり「筆」だと思っていないのである。

このことから、「筆」と「ブラシ」の使い分けとして、日本的なものは「筆」、そのほかのものは「ブラシ」という使い分けのルールが推測される。2-4「刷毛」に関しては、「筆」よりも、どちらかといえば「ブラシ」が選好される傾向がある。対象物を表す時、カタカナ語と非カタカナ語のどちらを使えばよいのか不明な場合、母語の知識を生かして、英語に対応しているカタカナ語が選択されやすいことを示している。

3.5 カテゴリー 3 Glove グローブと手袋

カテゴリー 3 はカタカナ語の「グローブ」と非カタカナ語の「手袋」をどのように使い分けているかをみる設問である。日本語において、「グローブ」を広辞苑（第 5 版）で引くと次のように説明されている。

グローブ【glove】

- ① 野球の捕球用革手袋。五本指のもので、捕手、一塁手以外のみが用いる。
グラブ。⇒ミット。
- ② ボクシング用の皮手袋。体重などにより重さに区別がある。

日本語でグローブというと、野球やボクシングのように革製のスポーツに使用するもののみを差し、普通の日常的なものにはグローブを許容しないのである。つまり、手袋とグローブは非常にはっきりとした意味のマッピングを行い、重なるところがない。このため、予備調査で非常に面白い結果が出たものである。

カテゴリー 3 の刺激となった写真は表 7 の 5 枚である。

表 7: カテゴリー 3 Glove グローブと手袋

3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
				

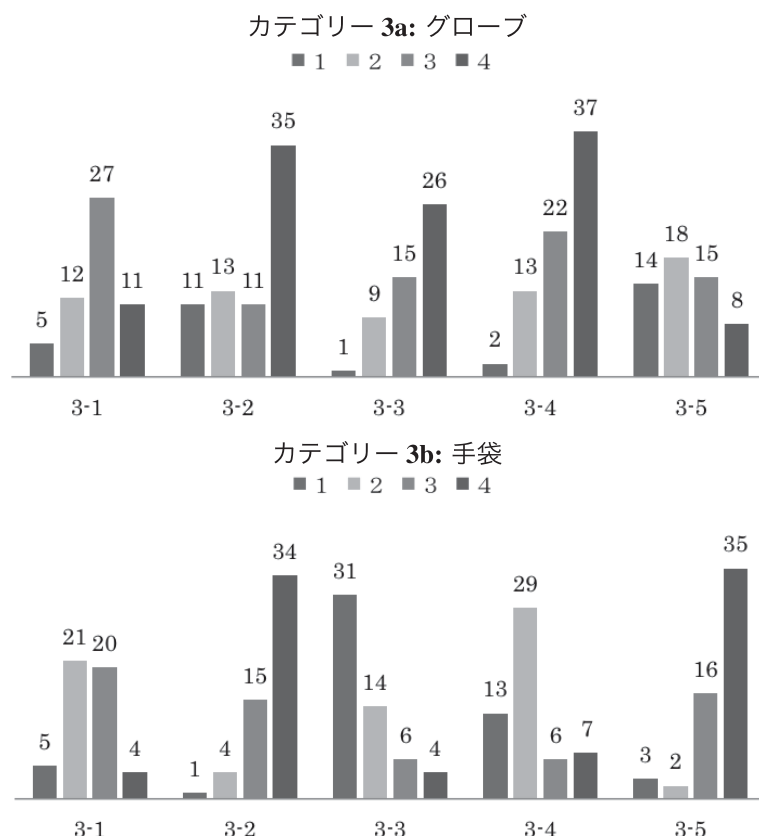
写真を解説すると、3-1「ゴム手袋」、3-2「革手袋」、3-3「野球のグローブ」、3-4「ボクシングのグローブ」、3-5「毛糸の手袋」である。

日本語学習者が「グローブ」と「手袋」をどのように使い分けているのかについては、表 8 (p. 37) のような結果となった。

カテゴリー 3a「グローブ」について、常に「グローブ」を使う（回答 4）を選択した回答者が多い写真刺激は 3-2「革手袋」64%(35 人)、3-3「野球のグローブ」47%(26 人)、3-4「ボクシングのグローブ」67%(37 人) の 3 つである。ここからわかることは多くの英語を母語とする日本語学習者は革かどうかを使い分けの基準にしているということである。この 3 つの中で、3-3「野球のグローブ」は回答 4 を選んだ人が最も少ないが、英語では 'baseball glove' といい、英語では単なる 'glove' だけでは野球用と認識されない。つまり、日本語のグローブは手袋の下の下位概念であるが、英語の glove は日本語の手袋に対応するような上位概念なのである。

また、発音も [gl'ʌv] となり、グローブよりグラブが近く、カタカナで「グローブ」と言われてもわかりにくい単語である。この他にも、野球用の道具には、別単語で mitt という捕手や一塁手が使うものもある。このように、英語母語話者は普段、英語では野球

表 8: カテゴリー 3: 英語母語話者のグローブと手袋の結果



をするときの道具に対して「グローブ」と言わないにもかかわらず、日本語では野球の道具に対して「グローブ」ということを理解している学習者が意外にも多いのである。予備調査でも同じような結果がでたが、本調査でも同じような結果を得ることができた。予備調査では1つの大学だけの調査だったので、これが一般的な傾向か判定することができなかったが、今回の本調査によって、野球の道具に対して、「グローブ」を使うことを意識的でも無意識でも認識している学習者が多いことが改めてわかった。

カテゴリー3「手袋」について、3-3「野球のグローブ」に対しては、全く手袋を使わない（回答1）という回答者が56%（31人）もいた。野球の道具を「グローブ」と言うことがわかっているのなら当然の結果である。ところが、3-4「ボクシングのグローブ」に対しては、全く手袋を使わない（回答1）という回答者が24%（13人）しかいなかった。つまり、野球に関してだけ、「グローブ」を使うと強い確信をもっており、ボクシングに関してはそうではないのである。先にも述べたように、辞書には野球とボクシングについて同じように書いてあるので、この差が辞書における説明の差ではないとしたら、ボクシングの話聞くことより、野球の話聞くことが多いなど、その知識に触れやす

いかどうかは鍵になっているのかしれない。






一般的に、カタカナ語と非カタカナ語の使い分けは辞書に書いていないことが多いことから、学習者は多くの例から帰納的にその意味カテゴリーを形成していく。そのため、その情報にどのくらいアクセスできるかが習得の鍵になっていることがうかがえる。

3.6 カテゴリー 4 Potato ポテトと芋

カテゴリー 4 はカタカナ語の「ポテト」と非カタカナ語の「芋」をどのように使い分けしているかをみる設問である。広辞苑を見ると、「ポテト」の項には「①ジャガ芋」「②スイートポテトの略」と描いてあり、この記述によれば「ポテト＝ジャガ芋」である。しかし、もし、留学生が「昨日、畑でポテトを掘った」と言ったら、意味は通じるかもしれないが、違和感があるだろう。ここからわかることは、日本語では芋とポテトは、米とライスに比肩されるような大きな違いがあるということである。つまり、同じものであってもその状態によって、語彙の使い分けが明確にされているのである。芋というのは、サツマイモやサトイモなどの総称であるが、ポテトと比較するために、本論文では狭義の芋とし、ここでは「ジャガ芋」とする。

カテゴリー 4 の刺激となった写真は表 9 の 5 枚である。

表 9: カテゴリー 4 Potato ポテトと芋

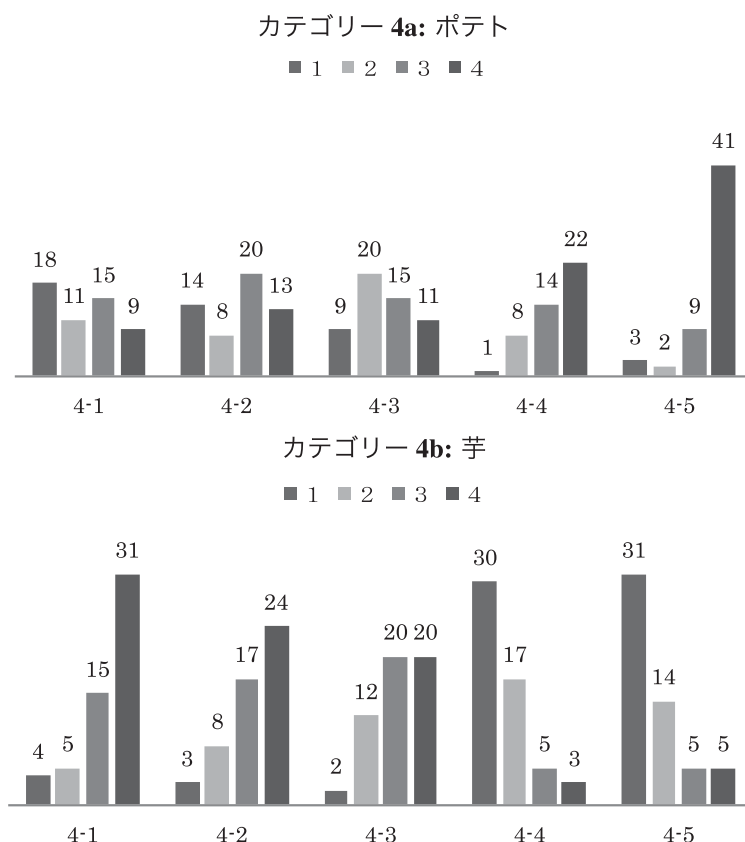
4-1	4-2	4-3	4-4	4-5
				

写真を解説すると、4-1「生のジャガ芋」、4-2「丸ごとふかしたジャガ芋」、4-3「肉じゃが、」4-4「ポテトチップス」、4-5「フライドポテト」となっている。久津木・池谷(2013)の日本語母語話者を対象とした予備調査では、4-1「生のジャガ芋」、4-2「丸ごとふかしたジャガ芋」、4-3「肉じゃが、」のように、材料としてのジャガ芋には芋を使う明確な傾向があった。

日本語学習者が「ポテト」と「芋」をどのように使い分けしているのかについては、表 10 (p. 39) のような結果となった。

カテゴリー 4a「ポテト」について、常に「ポテト」を使う(回答 4)の選択者は 4-4「ポテトチップス」40%(22 人)、4-5「フライドポテト」76%(41 人)であった。先にも述べたように、カタカナ語に関して言えば、対象物の名称に入っているとそのカタカナである認識度が高くなる傾向がある。ここで面白いのが、英語の potato のデータである。4-5「フライドポテト」は日本語の名前には「ポテト」が入っているが、英語では一般的に「French fries」と言われることが知られている。そのことを裏付けるように、英語 potato

表 10: カテゴリー 4: 英語母語話者のポテトと芋の結果



の調査では4-5「フライドポテト」に関して potato を使わない（回答1と回答2）という回答者が合計40%（22人）もいた。つまり、英語ではあまり potato と言わないが、日本では細切りにした油であげた芋が「ポテト」と呼ばれていることを認識しているのである。本調査は日本に滞在中の日本語学習者を対象として行ったので、フライドポテトの実物をファーストフード店などでよく見るせいなのか、はっきりとした傾向が見られた。

カテゴリー4bの「芋」についても、材料として形状が残ったものには「芋」を選好する結果がでており、日本語学習者と日本語母語話者とが同じような結果を示した。

使い分けが非常にはっきり上手く理解されていたカテゴリー3「グローブ」とカテゴリー4「ポテト」と、あまりはっきりした結果がでなかったカテゴリー1「ボトル」とカテゴリー2「ブラシ」とは何が違うのだろうか。「グローブ」と「ポテト」は、日本語母語話者を対象とした予備調査でも使い分けに曖昧さがないきれいな分布をみせた。ここでわかるのは、「グローブ」と「ポテト」は日本語において単語としての処理が終わり、その意味範疇がしっかり確定しているカタカナ語であるということだ。このようなカタカナ語は日本語学習者にとってもわかりやすく、学習しやすいことが今回の調

査の結果から明らかになった。






3.7 カテゴリー 5 Tea ティーとお茶

カテゴリー 5 はカタカナ語の「ティー」と非カタカナ語の「お茶」をどのように使い分けているかをみる設問である。単語にはある 1 つの単語がそのカテゴリーの代表として働く上位概念として働くことがある。例えば、「ごはんを食べた」と言った時のご飯は、白飯のことではなく、おかずや汁物も含んだ 1 回の食事のことを指す。つまり、「ご飯」という食事を構成する部分を表す単語が食事全体を示しているのである。これと同じようなことが「お茶」でも起こっている。

日本語では「お茶をいれましょうか？」と尋ねられたとき、日本茶だけが示されているわけではない。その次に「コーヒー？ それとも紅茶？」と聞かれるのは普通のことである。その時に「紅茶」を選択したあとにも、「アイス？ それともホット？」と続き、更に、「ミルク？ それとも、レモン？」と続く。このように、「お茶」というのは、かなり上位概念の語である。

カテゴリー 5 の刺激となった写真は表 11 の 5 枚である。

表 11: カテゴリー 5 Tea ティーとお茶

5-1	5-2	5-3	5-4	5-5
				

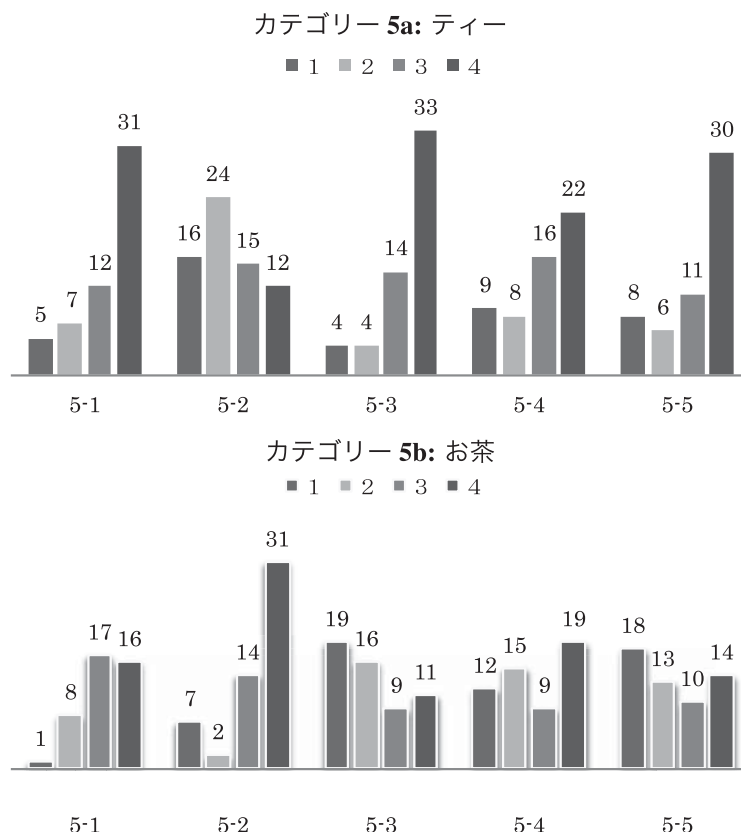
写真を解説すると、5-1「レモン入り紅茶」、5-2「熱いほうじ茶」、5-3「冷たい紅茶」、5-4「紅茶」、5-5「ミルク入り紅茶」になっている。久津木・池谷 (2013) の調査では日本語母語話者の結果では「茶⇒紅茶⇒様々なタイプのお茶 (=ティー)」という紅茶の中での意味のヒエラルキーが指摘されている。また、英語の tea についての写真刺激は、常に tea が使える (回答 4) を選択した人が多く、英語において 5-1 から 5-5 は一般的に tea と呼ばれるカテゴリーに入るものである。

日本語学習者が「ティー」と「お茶」をどのように使い分けているのかについては、表 12 (p. 41) のような結果となった。

カテゴリー 5a「ティー」について、5-2「熱いほうじ茶」以外はどれも「ティー」を使えるとした回答が多かった。5-1「レモン入り紅茶」、5-3「冷たい紅茶」、5-4「紅茶」5-5「ミルク入り紅茶」について、常に「ティー」を使う (回答 4) という選択者が多く、日本人とよく似た結果となった。

カテゴリー 5b「お茶」について、5-2「熱いほうじ茶」が常に「お茶」を使う (回答 4) が最も高い数字である 56 % (31 人)なのは、日本のものには和語を使うという使い分

表 12: カテゴリー 5: 英語母語話者のティーとお茶の結果



けの傾向に合致している。その他のものは使用が分散しており、それ以外に大きな使い分けの基準が見いだせなかった。






3.8 カテゴリー 6 Ticket チケット

カテゴリー 6 はカタカナ語の「チケット」と非カタカナ語の「券」をどのように使い分けているかをみる設問である。

日本人からみると、一見、「チケット」と「券」はあまり違いがない気がする。「飛行機のチケット」と言っても、「飛行機の搭乗券」とほぼ同じように感じられるからである。日本語母語話者を対象とした予備調査で、「チケット」と「券」には違いがあるのかという質問に直感的に判断してもらう項目では、統計的に有意な差で「違いが無い」とする人が多かった。しかし、実際に写真刺激を見て判断してもらうと、日本語母語話者には明確な使い分けが見られ、直感的には違いがないといいながら、実際には何を「チケット」と呼び、何を「券」と呼ぶのかということは非常にクリアに分かれていた。

カテゴリー 6 の刺激となった写真は表 13 (p. 42) の 5 枚である。

表 13: カテゴリー 6 Ticket チケットと券

6-1	6-2	6-3	6-4	6-5
				

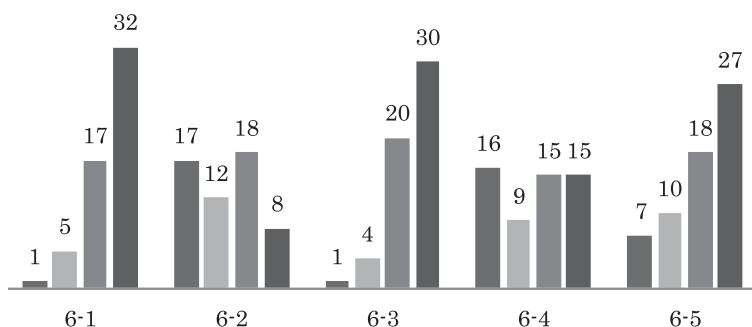
写真を解説すると、6-1「野球の見るためのもの（入場券）」、6-2「アイスクリームを引換えるもの（引換券）」、6-3「コンサート会場に入るためのもの（入場券）」、6-4「電車に乗るためのもの（切符）」、6-5「飛行機に乗るためのもの（搭乗券）」である。

日本語学習者が「チケット」と「券」をどのように使い分けているのかについては、表 14 のような結果となった。

表 14: カテゴリー 6: 英語母語話者のチケットと券の結果

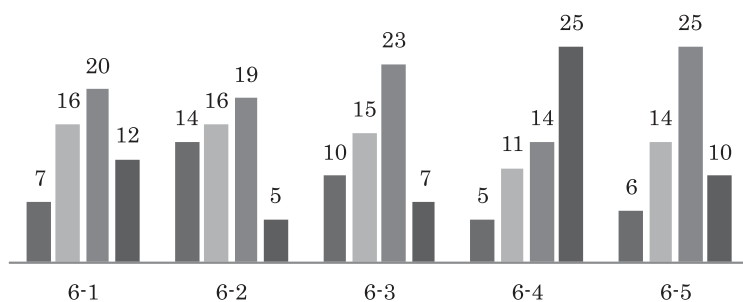
カテゴリー 6a: チケット

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4



カテゴリー 6b: 券

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4



カテゴリー 6a「チケット」について、6-1「野球を見るためのもの」や 6-3「コンサー

ト会場に入るためのもの」には常に「チケット」を使う（回答4）という選択者が多かった。これは日本語母語話者にもみられる傾向である。ただ、6-2「アイスクリームを引き換えるもの」と6-4「電車に乗るためのもの」には常にチケットを使う（回答4）という回答が比較的少なかった。6-2「アイスクリームを引き換えるもの」に関しては、英語ではこのような場合、coupon を使うため、ticket はあまり選択されない結果が予備調査でわかっている。そのため、カタカナ語の「チケット」も使用を回避する回答が多くなった可能性がある。6-4「電車に乗るためのもの（切符）」に関しては次で述べる。

カテゴリー 6b「券」について、常に「券」を使う（回答4）という選択者が一番高かったのが、6-4「電車に乗るためのもの」45%(25人)であった。これは、一般的に「切符」あるいは「乗車券」と呼ばれるものであるが、日本語学習者は非カタカナ語の単語があることを知っていて、カタカナ語「チケット」の選択を回避したため、「券」の確信度が高くなった可能性がある。同じ乗り物でも6-5「飛行機に乗るためのもの（搭乗券）」は回答4の選択者が18%（10人）しかいないので、電車は「チケット」を使わない別の専用の単語があったが、それは飛行機には使用しないと判断している学習者がかなりいることが予想される。

4. まとめ

今回、本調査として以下の6つのカテゴリーについて、英語を母語とする日本語学習者がカタカナ語と非カタカナ語をどのように使い分けているのかを調査した。

カテゴリー			カテゴリー		
1	Bottle	ボトルと瓶	2	Brush	ブラシと筆
3	Glove	グローブと手袋	4	Potato	ポテトと芋
5	Tea	ティーとお茶	6	Ticket	チケットと券

最後に、日本語学習者におけるカタカナ語と非カタカナ語の使い分けの傾向をまとめていく。

- ① カタカナ語に関して、非カタカナ語に対応する語がなく「ペットボトル」「歯ブラシ」のように指示対象物の名称の中にそのカタカナ語が入っていれば、積極的にカタカナ語を選びやすい。
- ② 「筆」と「ブラシ」の使い分けや「お茶」と「ティー」の使い分けから、日本的なものは非カタカナ語、そうではないものはカタカナ語を選ぶ傾向がある。
- ③ 対象物を表す時、カタカナ語と非カタカナ語のどちらを使えばよいのか不明な場合、英語の母語の知識を生かして、それと対応するカタカナ語が選択されやすい。
- ④ 「革手袋」を「グローブ」と判断することから、材料や形態など、独自の使い分けの基準を適用して判断することがある。その時の判断に母語干渉が現れるなど、一種、中間言語的な振る舞いを見せる。
- ⑤ 一般的に、カタカナ語と非カタカナ語の使い分けは辞書に書いていないことが多いことから、学習者は多くの例から帰納的にその意味カテゴリーを形成していく。そ

のため、その情報にどのくらいアクセスできるかが習得の鍵になっている可能性がある。

これらの6つのカテゴリーを習得がしやすいだろうと予測されるもの順に再分類してみた。

習得しやすいカタカナ語との使い分け

カテゴリー3 Glove グローブと手袋

カテゴリー4 Potato ポテトと芋

使い分けの基準がわかれば習得しやすいカタカナ語との使い分け

カテゴリー1 Bottle ボトルと瓶

カテゴリー2 Brush ブラシと筆

習得しにくいカタカナ語との使い分け

カテゴリー5 Tea ティーとお茶

カテゴリー6 Ticket チケットと券

一番習得しやすいのが、「グローブと手袋」「ポテトと芋」のように指示対象が重なることなく、カタカナ語で表されるものが特別な形状や状態を示すものである。この場合のカタカナ語は非常に有標なものである。これらはすでに日本語としての処理が終わり、単なるカタカナ語での英語の言い換えではなく、独自の語彙カテゴリーを獲得したものである。

次に習得しやすいのが、「ボトルと瓶」「ブラシと筆」のように、指示対象は重なっているが、材質や形態、使用方法などで使い分けがされているものである。この場合のカタカナ語は、カタカナ語であることが特に有標であるということはないが、その使い分けの規則が見えればある程度、予測が付くものである。

最後におそらくもっとも習得がしにくいと予測されるのが、「チケットと券」「ティーとお茶」のように、一見非常に意味がよく似ていて使い分けの基準を規則化しにくいものである。非カタカナ語とカタカナ語が包摂関係にあるが、語彙カテゴリーの境界が融合しているため、同じものを「飛行機のチケット」や「飛行機の搭乗券」や「ボーディングパス」のように様々に言い表すことができ、それらの語彙は排他的ではなく共存している。完璧に使い分けることは難しいが、逆にカタカナ語と非カタカナ語の意味が似ているため、「電車の回数チケット（回数券?）」や「そばティー（そば茶?）」と言っても、コミュニケーション上の大きな弊害を引き起こさない。ゆえに、訂正のフィードバックを受ける機会が少ないので、逆に習得が遅れる可能性がある。また、これらの違いは辞書には載っていないので、帰納的に習得していくしかない。

参考文献

- 池谷知子・久津木文 (2013) 「英語を母語話者とする日本語学習者におけるカタカナ語の研究-Tea とティーとお茶は同じなのか」『TALKS』16,21-36. 神戸松蔭女子学院大学学術研究会.
- 久津木文・池谷知子 (2013) 「日本語母語話者のカタカナ使用についての予備研究」『TALKS』16,37-50. 神戸松蔭女子学院大学学術研究会.
- 佐藤弘 (1994) 『外来語と英語のブレ-英語を学び、使う人のために-』八潮出版社.
- 陣内 正敬 (1993) 「『さじ』と『スプーン』:外来語化と命名のゆれ」『言語文化論究』4号,47-54. 九州大学言語文化部.
- 陣内 正敬 (2008) 「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化=語言与文化』11号,47-60 関西学院大学.
- 鳥飼玖美子 (2007) 「カタカナ語に見る意味のずれ」『月刊言語』2007年6月号,52-59.
- 中山恵理子・桐生りか・山口昌也 (2008) 「日本語教育における『カタカナ教育』の扱われ方」『日本語教育』138号,83-91. 日本語教育学会.

使用辞書

- 松村明 (編) (1995) 『大辞林 第2版』三省堂.
- 新村出 (編) (1988) 『広辞苑 第5版』岩波書店.
- ロングマン (編) (2003) 『ロングマン現代英英辞典 4訂新版』桐原書店.

Author's web site: <http://www.shoin.ac.jp/>

(受付日: 2014.1.10)